

(概要版)

中学校英語科における「書く力」を高める指導法の工夫 — 四技能を関連付けた学習活動を通して —

長期研修員 唐澤 光貴

I 現在の状況および主題設定の理由

新学習指導要領

「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの
コミュニケーション能力の基礎を養う」

群馬県教育振興基本計画 (平成21~25年度)

「四技能のバランスを図りながら、コミュニケ
ーション能力を養うことが重要」

求められているのは…

コミュニケーション能力の育成！

- 具体的には、
- 四技能を総合的に育成する指導と活動の改善！
 - 四技能を統合的に活用できる
コミュニケーション能力の育成！
 - 「聞くこと」「話すこと」の指導内容の改善に加え、「読むこと」「書くこと」の指導の充実！

そこで、

「書く力」に焦点をあて、表記と内容の面に分類し、三年間の目標や指導項目などを設定！

| 「書く力」を高めるための三年間を見通した学年目標と指導項目および具体的な活動例 | | | |
|--|--|--|---|
| ○学年目標 | ○表記に関する面 | ○内容に関する面 | ○具体的な活動例 |
| <1年> 正しい語順とつづりで、自分のこと や自分にかかわることなどについて、 書くことができる。 | ・アルファベットを正しく書く。 ・符号(ピリオド・疑問符など)を適切に使 う。 ・正しいつづり、語順、文法で書く。 | ・自分の身近なことなどについて紹介す る文を書く。 ・自分の伝えたい情報を整理して書く。 | ・自己紹介 ・友だち・家族紹介 ・地域紹介、日記 |
| <2年> 意味のまとまりを考えながら、自分 が体験したことなどについて、意見や 考えを入れて書くことができる。 | 1年の内容に加えて、 ・チャンク(意味のまとまり)を意識し て書く。 | ・自分の体験について詳しく書く。 ・自分の考えや意見を書く。 | ・日記・思い出語り ・予定の説明や紹介 ・物語などの紹介や説明 |
| <3年> 状況に応じて適切な書式や様式で、 論理的で首尾一貫した英文を書くこと ができる。 | 1・2年の内容に加えて、 ・内容に応じた書式や様式で書く。 ・つなぎ言葉などを適切に使って書く。 | ・読み手を意識して、自分の体験や意見 について書く。 ・論理的に首尾一貫した文を書く。 ・文のつながりに注意して書く。 | ・自己紹介や旅行記 ・名所などの紹介・説明 ・道案内、感想文 ・事柄の描写や説明 ・新聞・メールなどの作成 |

本研究は二年生で実施しました！

○協力校の中学二年生における、「書く力」の実態と目指す生徒像は…



- ・つづりや語順が正しく書けるようになった！
- ・英文がより多く書けるようになった！

◎「書く力」が高まる！

●より多くの情報を含んだ英文を「書く力」に課題あり！



- ・つづりや語順が正しく書けないなあ…。
- ・思っていることを英語でもっと書きたいなあ…。

「書くこと」と他の技能を関連付けるとは？

II 「書く力」を高めるための三つの手だて

1. 「聞くこと」+「書くこと」の関連付け
→ 聞いた単語やチャンクを書き取る活動（表記に関する活動）

○ICT機器を活用して、音声と文字の一致を図る活動を行う。

→ パワーポイントを活用して、音声と文字の一致を図る！

Listening & Dictation!! 4-1(chunks)

○空いているスペースにあてはまる単語や語句を、教科書を見ないでうめてみよう！意味のまどまりに気

Mother Teresa began her work / _____ / in Kolkata / in 1948.
マザー・テレサは仕事を始めました / 子どものために / コルカタで / 1948年に /。

In some parts of the city, / the people were very poor / and /

_____ / for their children.

その都市のいくつかの地域では、 / 人々がとても貧しく / そして / 学校もありませんでした / 子供たちのための /。
Mother Teresa gathered together / some children /

_____ / to them.

マザー・テレサは集めました / 子ども達を / そしてアルファベットを教えました / 彼らに /。

It was not easy / _____ /

_____ they had no pens / _____ /

_____ することは簡単ではありませんでした / なぜなら / 彼らにはペンもな / ノートもなかったからです /。

↑ 聞いた単語やチャンクを書き取る！

指導上の工夫と成果

- ☆生徒が聞き取り・読み取りを容易に行えるよう、チャンクごとにスラッシュ（/）を入れる。これによって、意味のまとまりをとらえやすくなった！
- ☆英文の下には、チャンクごとの日本語訳をつけて、英文の語順で内容を理解できるように配慮する。これによって、文のおおよその意味をとらえやすくなった！
- ☆書き取り活動の前には、十分な口頭練習を行う。これによって、多くの生徒が活動の後で、「できた」という達成感が得られるようになった！

○生徒が取り組んだ様子 ※（ ）は生徒が書き取った部分

一時間目ではやや間違いが見られましたが…

Mother Teresa began her work / (for children) / in Kolkata / in 1948.

In some parts of the city, / the people were very poor / and / (they had no schools) / for their children.

Mother Teresa gathered together some children / (and taught alphet) / to them.

It was not easy / (because) / they had no pens / (and no notebooks) .

the なし

三時間目では正しく書くことができました！

In 1950, / Mother Teresa (started) / the Missionaries of Charity.

Its motto is / "Go to the poor" / with joy. / Say yes / to peace."

In 1979, / (she received) / the Nobel Peace Prize.

(She died) / in 1997, / but even now, / the missionaries are working / (all over the world).

(They are working) / in Japan / too.

(For example) , / they have a house / for homeless children / in Tokyo.

ミスなし！

□題材名：PROGRAM 4 With Love and with Joy (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂出版) 6時間計画

□題材目標：マザーテレサの生き方や業績について知り、それについて感じたことや思ったことを英文で表したり、5W1Hの視点で「夏休みの思い出」について、情報を含んだ英文をより多く書くことができる。

2. 「話すこと」+「書くこと」の関連付け

→ 会話で使ったチャンクを基にして英文を書く活動（表記に関する活動）

○教科書の内容を問う会話活動を行った後、

正しい語順で英文を書く活動を行う。

…会話活動の後に、

英問1: What did Mother Teresa do for some children?

に対する解答を段階的に書く！

【step1】何をした？「した」の上に入れよう。(過去形にしてね)

1. _____
が した に

taught the alphabet

↑ 会話で使った単語やチャンクを思い出して、正しい語順で段階的に書いていく！

【step2】だれが？「が」の上に入れよう。(1語)

2. _____
が した に

She taught the alphabet

【step3】だれに？「に」の上に入れよう。(2語) 完成！

3. _____
が した に

She taught the alphabet to them.

↑ 完成！

指導上の工夫と成果

- ☆会話活動で使ったチャンクを思い出しながら書いていくよう指導する。その結果、下位群の生徒も語順を正しく書けるようになった！

○生徒が取り組んだ様子（部分）

【何をした？】taught the alphabet

【だれが？】she

【だれに？】to them

She taught the alphabet to them.

A群（上位）の生徒

正答！
(正しいつくりと語順)

【何をした？】taught alphet

【だれが？】she

【だれに？】to them

She taught alphet to them

B群（中位）の生徒

つづり及びtheの付け忘れミスはあるが、語順は正しく書けている

【何をした？】taught the alphabet

【だれが？】she

【だれに？】some children

She taught the alphabet some children

C群（下位）の生徒

前置詞の付け忘れ及び変換ミス (to them) はあるが、語順は正しく書けている

3. 「読むこと」+「書くこと」の関連付け

→ モデル文を読んで、5W1Hの視点で英文を書く活動（内容を広げる活動）

○5W1Hの視点で書かれたモデル文を提示し、

情報を含んだ英文をより多く書く活動を行う。

7 SENTENCE WRITING!!

○夏休みに体験したことや、それについて感じたことや思ったことを英語で書いてみよう！モデル文を参考に！文と文のつながりや語順に注意しよう！

1. I'm going to talk about my summer vacation.

(夏休みのことについて話します。)

2. I went to Niigata with my family, because my children love the sea and fishing.

(私は家族と一緒に新潟へ行きました。なぜなら子どもたちが水泳と釣り大好きだからです。)

3. We stayed there from August 6 to 8.

(私たちは8月6日から8日までそこで過ごしました。)

4. We swam and went fishing in the morning.

(午前中は、泳いだり、釣りしました。)

5. We saw many fish in the sea, but we couldn't get them.

(海ではたくさんの魚を見ましたが、取ることはできませんでした。)

6. In the afternoon, we enjoyed BBQ and fireworks very much.

(夕方は、バーベキューや花火をとても楽しみました。)

7. I think we can go to Niigata next year,

and we want to try many things.

(来年も新潟へ行き、多くのことに挑戦したいと思います。)

だれが(who)

いつ(when)

どこで(where)

何を(what)

なぜ(why)

どのように(how)

5W1Hの視点で様々な情報を盛り込んだモデル文を提示し、書くポイントを理解してから、自分の感じたことや思ったことなどのより多くの情報を含んだ英文を書くことができるようにする。

指導上の工夫と成果

- ☆モデル文を提示した後に、自分で書くポイントを整理させてから書く活動に取り組んだ。その結果、5W1Hの視点に沿って、情報を含んだ英文をより多く書くことができるようになった！

○生徒が取り組んだ様子（部分・原文のまま）

・ I'm going to talk about my summer vacation.

・ We went to Hukui and Ishikawa with my family, because looked Eiheitemple and Kenrokuen. だれがどこへなぜ

・ We went there on Bon Festival. いつ

・ Traffic was very heavy on the streets. どのように

・ I'm ate sushi. 何を

・ I bought souvenirs for my friends.

・ I enjoed on Bon Festival.

5W1Hの視点！

・ I'm going to talk about my summer vacation.

・ I went to Osaka with my family. だれがどこへ

・ We stayed there from August 13 to 14. いつ

・ We went to USJ, because my sister and mather love the attractions. どこへなぜ

・ We ate lunch ジャーチャーめん and french-fried chicken. 何をどのように

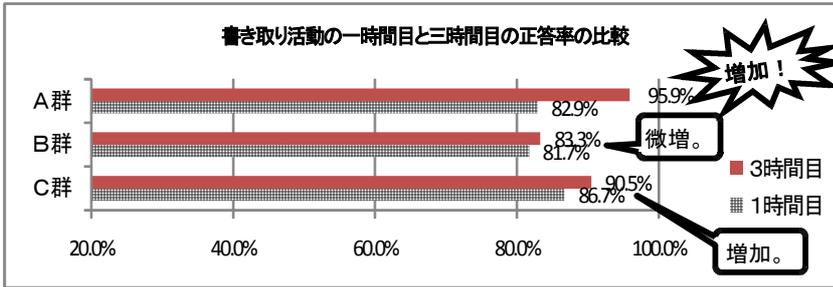
・ It took 10 hours to go to Osaka very hard, but I enjoed very much.

・ I think we can go to Osaka.

B群の生徒

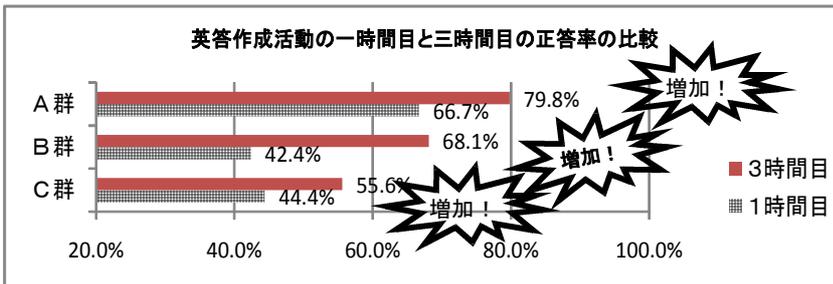
Ⅲ 検証結果と成果 (実践後の生徒の変容から)

1. 「聞くこと」＋「書くこと」の関連付けについて…



聞いた単語やチャンクを書き取る活動では、一時間目と三時間目の活動を比較すると、AからCすべての群で正答率が増加。

2. 「話すこと」＋「書くこと」の関連付けについて…



会話のチャンクを基にして段階的に英文を作成する活動では、一時間目と比較して、三時間目の正答率が大幅に増加！

3. 「読むこと」＋「書くこと」の関連付けについて…

| | 文の数 | 感じたことなどを含んだ文の数 | つなぎ言葉の数 |
|----|-----|----------------|---------|
| A群 | 8.7 | 2.3 | 1.1 |
| B群 | 7.9 | 2.0 | 0.8 |
| C群 | 5.3 | 0.7 | 0.3 |



モデル文を読んで、5W1Hの視点で英文を書く活動では、A群、B群は、視点に沿って、平均して目標の数（7文）以上の英文を書くことができ、C群も目標に近い数の文を書くことができた！

成果として、

- ◎ ICT機器を活用したことで、生徒は音声と文字を一致させて、正しいつづり（表記）で書くことができるようになった！また、下位群の生徒からも、「よく書けた」という声が聞かれ、達成感を得られた！
- ◎ 段階的にチャンクを思いおこしながら書き出していったことで、正しい語順で英文を書くことができるようになった！
- ◎ 5W1Hの視点で書かれたモデル文を提示したことで、生徒は書き方のポイントを理解して、感じたことや思ったことなどを含んだ内容的に広がりのある英文を多く書くことができるようになった！

Ⅳ 今後の課題



- 自分の感じたことや思ったことを含んだ文を書くためには、多様なモデルを生徒に提示し、指導することが必要である。モデル文については、いろいろなモデル文を生徒が選択できるように工夫することが重要である。
- 「書く力」を高めるためには、「書くこと」と他の三技能を関連付けた活動を、三年間を見通した長期的な視野で考え、段階的な指導を行っていく必要がある。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター
 担当係：高校教育研究係 0270-26-9214（直通）